第 572 号 平成5年1月 20 日発行（毎月 20 日発行）
昭和 49 年 8 月 31 日 第三種郵便物認可

1993 年（平成五年）
1 月 号（No. 572）
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価一部 150 円

目　次

平成四年度年次晩餐会……（1）
海外の山……（2）
「ビスケットを作って南極を歩く」
新・山研だより（6）……（3）
ナムチャバルワ初登頂訪中祝賀団報告……（5）
ナムチャ登山隊の帰国と訪日中国祝賀団の来日……（5）
祝　辞……（6）
ナムチャバルワ初登頂祝賀会……（6）
「ナムチャバルワ峰登山隊報告会」も……（7）
東西南北……（7）
「青海省登山協会訪日代表団本会を表敬訪問」「南極観測隊長に本会会員」「近畿の名山・100」ほか
図書紹介……（10）
「百歳までの山登り」「七大陸最高峰に立って」「ヒンズークシュの名峰 TIRICH MIR (7,708 m)」「句集 薄雪草」
報　告……（12）
「平成四年度全国支部大会」「ナムチャバルワ峰登山隊支援トレッキング隊報告」「第29回学生部マラソン大会報告」ほか
会務報告……（15）
評議員会，11月定例理事会，常務理事会，支部長会議，ルーム日誌，会員異動，山研・ナムチャ合同募金応募状況，書籍・雑誌受入報告，新入会員（復活），住所・住居表示変更
お知らせ……（17）

お知らせテープ電話 3234 六六五九
▶日本山岳会事務取扱時間
月，火，木，土曜　10時～20時
水，金曜　13時～20時
日曜・祭日は休み
▶図書室開室時間
日曜・祭日・月曜を除く毎日
13時～20時

平成四年度年次晩餐会

ナムチャバルワ、山研改築 二大イベント達成も併せ祝う

年次晩餐会・新入会員紹介

会場は明るい雰囲気に包まれていた。と同時に、晩餐会に先立って開かれた「ナムチャバルワ峰登山隊報告会」での生々しい報告、「NHKスペシャル・再挑戦ナムチャバルワ」予告編の感激の一瞬。それらの感動の余韻が満ちあふれていた。

ナムチャバルワ峰初登頂、山研改築という、平成四年度の二大イベントが現実のものとなった今、この晩餐会が必然的に盛り上がっていったことはいうまでもない。

平成四年度の年次晩餐会は旧ろう五日、前年と同じく東京・品川の新高輪プリンスホテル国際館パミール三階の「北辰」の間に、六年連続ご出席の皇太子殿下をはじめ、全国各地より約六百二十名の会員が集い開かれた。

式次第は小倉茂暉総務担当常務理事によりスムーズに進行。

病気欠席の山田二郎会長に代わって、挨拶と会の現況報告に立った藤平正夫副会長は、皇太子殿下が例年通りご出席されたことに謝意を述べたあと、私見をまじえてとことわりつつ、大要次のように語った。

「ナムチャバルワ峰初登頂成功が、今年度最高の成果であった。尊い犠牲となった故大西宏隊員も、あの世で喜んでくれていると思う。

山研改築は順調に進行し、十二月十四日に工事検査を受け、翌日閉鎖、平成五年春に開所。ウエストン祭前後に大々的に披露する。

山研・ナムチャ合同募金は、ナムチャ（スークーニャン）山登山隊、マッキンリー気象観測機器設置登山隊はそれぞれの成果をおさめ、南極アンタークティックウォーク隊も、一月中旬目的地到達の予定だ。

支部長会議で会員の高齢化が提議されたが、これは本・支部共通の問題だ。全国支部懇談会は十月三十一日～十一月一日、福岡・英彦山で開かれた。

今後の課題として、アルパインクラブである以上、山登りが使命である。しかし今後の登山スタイルとして、松本で開かれた国際山岳連盟の理事会、総会でも指摘された自然保護、環境保全に、人間の生命力発揮という観点から、双方の接点を求めなくてはならない。若い登山家がどう考え、対処するのか。

国際化の問題も日本の登山界にのしかかっている。韓国、台湾の登山者のについては一応終わったので、今後は山研募金として最後のふんばりをお願いしたい。

海外登山基金によるナムチャバルワ峰登山隊、広島山の会四姑娘山登山隊、マッキ

来日が多くなった。過日ソウルに行って、韓国山岳会の若い人たちと話し合いの機会があった。韓国では自然保護がゆきとどいているし、登山者のマナーもいい。UIAAの報告をみると、スイス、ネパール、インドなどでは、受け入れ側の考え方として、その国の伝統文化を扱みとって欲しい、とある。

環境問題はグローバル、地域的にみると社会・経済・政治問題となる。JACには自然保護委員会があり、ここでどのように対処していくかが課題だ。山村関係者の生活実態をどのように考えるかも必要であろう。

高齢者対策については、若い人が入会しないと活力が出ない。これは他国でも同じようだ。本・支部の知恵をかり対処したい。しかし本部を中心に、アルパインスキークラブ、アルパインスケッチクラブ、フォトビデオクラブや、三水会、丹水会など山を中心としたグループができるのはいいことだ。」

小倉理事からは、平成四年十一月末現在の在籍会員数は五千九名、平成三年十二月〜平成四年十一月の新入会員は二五五名、支部数二十二、との現況報告のあと、物故者（別記）黙禱に入った。

名誉会員・永年会員発表では、新名誉会員は太田敬、橋本誠二、村山雅美、坂倉登喜子、ナムチャバルワ中国隊総進められてきたこの計画、北海道大学大学院環境科学研究科に籍を置く吉川が隊長となって「到達すること自体が目的ではない。環境調査を目的とする探検隊である」との性格がより明確に打ち出された。二〇キロごとに雪を採取、環境汚染のデータとして持ち帰る。極点までは千四百キロ、七十か所の雪をサンプリングする予定だ。

航空機などによる補給はなく、橇に載せた物資だけを頼りに歩き通す計画（南極点まで行ったら、航空機で帰る）だから、二十四歳の佐野哲也隊員（明大山岳部OB）を含め、食べ盛りの南極徒歩隊にとって、食糧は最重要品だ。が、七十日間と想定している行動期間中、一人あたり七十一キロの食糧しか持っていけない。

考案されたのが、「吉川ビスケット」と命名された、高カロリー食である。一行はチリ最南端のプンタアレナスに滞在中、ビスケット作りに励んだ。

「吉川ビス作りは最も重要な作業であるばかりでなく、そのばかばかしい真面目さは私たちアンタークティック隊の本質をよく具現化する最たるものの一つ」と松原は報告しているが、作り方がすごい。

小麦粉、砂糖、粉ミルク、マッシュポテト、チーズ、ゴマなど雑多な材料を「五百数十個の生卵を一緒くたに大きな黒ビニールにいれ素手でぐちゃぐちゃやり」大量のバターを投入した上、五時間で焼き上げたのである。

脂肪分を多く摂取して寒さに備えるイヌイットの食事を参考に、吉川が考え出したこのビスケット、脂肪率は三八%という。これを主食に、一人一日四千六百キロカロリーを摂取するのが隊の食糧計画だが、食事を楽しくするために、ピザや中華饅頭を作って食べている。

悲壮感のない、三人の奮闘ぶりがいい。（江本嘉伸）

海外の山

ビスケットを作って南極を歩く

歩いて南極点までたどり着こう、と「アンタークティックウォーク南極点探検隊」の吉川謙二隊長（二九）ら三人の日本青年が、九三年一月中旬のゴール目指して、頑張っている。この会報が届く頃にはあるいは到達しているかもしれない。

九二年十一月十日、南緯八〇度二〇分、南極半島の〝つけ根〟に位置するパトリオットヒルを一人百キロの橇を曳いて出発、一日一五〜二五キロというペースで進み、十二月五日、八三度ラインを突破、十九日には八五度二六分に達した。パトリオットヒル近くのキャンプで観測にあたっている二人の支援学術隊員と無線で定時交信、その状況は時折プンタアレナスと大陸間を飛ぶ航空便を利して日本に伝えられている。

「坂上りで疲れた。今日は一五・二キロしか進んでいない」（十一月三十日）

「十九日にシールスマウンテンズに到着し、二十、二十一日と調査。南極点には一月十六日に着く予定」（十二月二十日）

シールズマウンテンに着いた時の感想を隊員の松原尚之（二七）（法大山岳部OB）は「久し振りに雪原意外を見て猛烈に感動しています。三人とも体調がよく、昨日（十九日）は今までの最高の二十五キロを歩きました。最近の楽しみと言えば食事、特に作り、食べることです」と、伝えてきた。

ナムチャバルワから帰らなかった大西宏を中心に当初

隊長のローサンダワの五氏（略歴別記）で、当日出席の太田、村山、坂倉三氏に藤平副会長から名誉会員章が贈られた。

新名誉会員を代表して村山雅美氏は「昭和二十年末期、現在日立本社のある場所にあった山岳会の小さな部屋を想い出す。その当時の名誉会員と私たちの落差を禁じ得ないが、今後ともますますの会の発展を願いつつ、名誉会員の立場でお手伝いをしたい」と挨拶。

新永年会員は山口京一、新堀春喜、風見武秀の三氏（略歴別記）。出席の新堀、風見両氏に藤平副会長から永年会員章が贈られた。

新永年会員を代表して風見武秀氏は「在籍五十年を迎えたことは、長く勤めた会社を定年になったようで、急に歳をとった感じ。今一度初心に戻り、ヒマラヤ初登頂は無理だが、カメラ片手にヒマラヤの写真を撮りたい」と挨拶ともども抱負を語った。

会長特別表彰は田部井淳子会員。これは女性として世界で初めての七大陸最高峰登頂や、HAT－Jでの活躍を通じ、山岳地帯の環境保全への多大な貢献などによるもの。田部井会員は文部省より「スポーツ功労者」表彰も受けている。

会食に先立って今西寿雄前会長が立ち、「本日は皇太子殿下を一会員としてお迎えし、全国各地の会員が一堂に会し大変うれしい。各位のご健勝とご多幸を祈って」と乾杯音頭をとった。

そして待ちに待った会食。名山名を付された円卓テーブルは六十三を数え、各テーブルでは歓談に花が咲いた。

この会食中にはナムチャバルワ峰登山隊員の紹介、新入会員紹介と代表者挨拶、支部会員紹介、山里寿男「山のデッサン館」の紹介が織りまぜておこなわれた。

皇太子殿下ご退席のあとも、会場内での歓談はなお続いたが、やがて定刻を迎え、参会者は一九九二年版『山岳』と会員名簿九二年版を手に、来年の再会を約しつつ、会場を去ることになった。

なお、晩餐会に先立って、隣接の「慶雲」の間では、簡易バーが開設され、資料委員会の特別催し、加賀正太郎氏寄贈「蘭花譜」展、榎谷徹蔵氏「絵画」展や、ナムチャバルワ写真展のほか、JACグッズ頒布コーナ、書籍販売コーナーも設けられ、完成目前の「日本山岳会上高地山岳研究所」がビデオで紹介された。

最後に、設営から運営に苦労された各理事・委員各位に、紙上をもってお礼申し上げる。

〔物故者〕 今西錦司（名誉会員）、山田二郎、国分勘兵衛、谷口現吉（名誉会員）、見学玄、田中栄蔵、吉田勇、板倉勝正、佐藤金一、柴田均二、川又恒一、鷲尾彦七郎、中野峻陽、泉隆次郎、牛山大六、福住修治、五十嵐俊治、小松寛、阿達憲、宮本貴文、川端信治、熊谷太三郎、長谷川暁一、牛島宥、佐藤敏彦、吉田満、高本信子、山縣浩、早坂敬二郎、奥淳一、今井三男、宮入保徳、山田武楠、宅間靖、米沢直治

（写真・**梅本知栄子**／文責・**高田眞哉**）

〔新名誉会員紹介〕

太田敬（一八九九番）

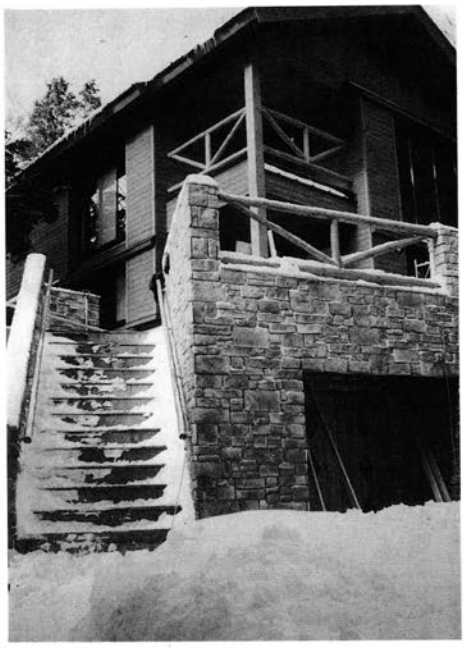
大正五年三月二十日生　慶応義塾大学卒、紹介者は三田幸夫、早川義郎。

新・山研だより(6)

雪で道路が閉ざされる迄にと工事を急いでいた山研は、予定通り建物部分がここで完成し、十二月十四日には松本地方事務所の竣工検査も無事済ますことが出来ました。あとは襖、障子等の建具を取り付け、寝具や炊事用具等の用度品を整備し、山岳資料展示室の体裁を整えれば山研改築は完了ということになりますが、これは来春の仕事となります。

多くの方々のご支援のお陰で、当初の計画通りの期間に予想外に立派な山研が出来上りました。改築委員一同感謝申し上げます。来年のゴールデンウィークから多数利用していただくようお願いいたします。

（石橋）



竣工検査の終った山研
（一階玄関を見上げる）

学生時代より広く内地の山々を歩きかつ本会では長きに亘って監事を務められ、本会の発展に大きく寄与された。

橋本誠二（二〇一八番）

大正七年一月一九日生、北海道大学卒、紹介者は山崎春雄、中野征紀。

主な山歴は次の通りである。

一九五五年　マナスル先遣隊

一九六〇・六五年　アラスカ氷河調査

一九三五～八五年　北海道の山岳とくに日高山脈を歩く。

本会では長く北海道支部長を務められ、一方では、ネパールヒマラヤの地質の研究などで秩父宮記念学術賞を受章している。

村山雅美（二四九七番）

大正七年三月二十八日生、東京大学卒、紹介者は今井田研二郎、関根吉郎。

氏は、本会の行ったマナスル登山隊に一九五三、五四、五五年の三次にわたって参加、また二次に亘る南極越冬隊長を務められ、日本人初の南極点旅行隊として南極点に到達している。

坂倉登喜子（三〇四一番）

明治四十三年七月一日生、滋賀県長浜高女卒、紹介者は入澤文明、山下一夫。

氏は大正十三年伊吹山初登以来、北は北海道から南は九州まで全国隈なく足跡を残している。また海外でもブータン、ヨーロッパ、インド、カナダ、アンデス、ヒマラヤなどに広く足を伸ばしている。なお氏は女性だけの山岳会「エーデルワイスクラブ」を創設、その会長として現在にいたっている。この間、昭和五十一年ウ祭参加三十回でJAC信濃支部より感謝状、また昭和五十三年には東京都山岳連盟より表彰状を受けている。主な著作は『エーデルワイスの詩（うた）』、『日本女性登山史』など数冊におよぶ。

洛桑達瓦（Lousang Dawa）54

一九三八年八月生

中国西蔵自治区体育委員会主任（党組付書記）、西蔵登山協会主席。

一九五六年　昌都幹部学校西南民族学院卒。一九五九年　バスケットボール選手、一九六〇年　ラサ市計画委員会物資局副局長、一九七二年ラサ市交通庁副局長、一九八八年三国友好チョモランマ登山に際し、西蔵側の責任者として協力。一九九〇年　中国・ソ連・米国三国合同登山隊の中国側総隊長として活躍。同年秋の日中合同ナムチャバルワ偵察隊以降、一九九一年隊、一九九二年隊と連続して中国側の総隊長として活躍。ナムチャバルワ登山を成功に導いた。

（Y・M）

〔名誉会員となった感想〕

▼太田敬氏

急なことで、また意外なことで、とくに感想らしきものを今持ち合せていません。しばらく経過すれば、それなりの考えもまとまることでしょうが…

▼橋本誠二氏

突然思いもよらぬご通知に恐縮いたしております。

▼村山雅美氏

恐縮至極

▼坂倉登喜子氏

昭和二十二年入会以来、諸先輩の皆様からご指導を受けつつ、四十五年間、山があるから、山に生きて八十年、JACと共に歩んで、今回名誉会員にご推薦頂き感激致しました。今後も後輩の女性たちのために生涯現役で登山の指導を続けて行きたいと思っています。ありがとうございました。

〔新永年会員紹介〕

山口京一（二一三六番）

一九一七年四月一日生　75歳

日本大学卒

紹介者　谷本弘、忍足博義

新堀春喜（二一七四番）

一九一〇年三月二十日生　82歳

旧制中学卒、日銀勤務

紹介者　藤島敏男、吉村毅

風見武秀（二二〇五番）

白木商業卒、日本山岳写真協会元会長

紹介者　塚本繁松、槙有恒

〔永年会員になった感想〕

▼山口京一氏

入会当時は戦中でもあり、五万分の一の地図も警察署長の証明がなければ買うことができず、汽車の切符も入手困難で虎の門の事務所を訪ね塚本繁松氏に相談に乗って貰った。山から得た知識や経験が、人生の行動の規範になっていることを思うと、やりたい時にやりたい事ができた事に感謝している。

▼新堀春喜氏

藤島敏男氏等先輩、岳友とのルームでの放談は楽しかった。

▼風見武秀氏

もう五十年と、びっくりしております。未だ現役と取材中です。

小田稔会員、ローマ法王庁科学アカデミー会員に

本会小田稔会員（会員番号八九七一番、理科学研究所理事長）は、世界的に権威のあるローマ法王庁科学アカデミーの終身会員に推挙された旨、この度発表された。

日本人では、故湯川秀樹、福井謙一（いずれもノーベル賞受賞者）らに次ぎ五人目。

報告

ナムチャバルワ初登頂
訪中祝賀団報告

日中国交正常化二十周年記念事業として実施された今回のナムチャバルワの初登頂は、地元中国では熱烈な歓迎を受け、帰路八一鎮では八〇〇〇人が、ラサでは三〇〇〇人が参加するという盛大な歓迎を受けた。西蔵の主都ラサでの祝賀会には、北京から国家体育運動委員会副主任（スポーツ省次官）も参加された。

登山隊が北京に帰着する十一月中旬には北京で祝賀会を行うので日本からも訪中祝賀代表団を迎えたいとの招請状が届いたので、種々検討の結果、十月十七日の北京祝賀会に合せて、共催四団体より、今西団長以下十一名を派遣することにした。即ち、

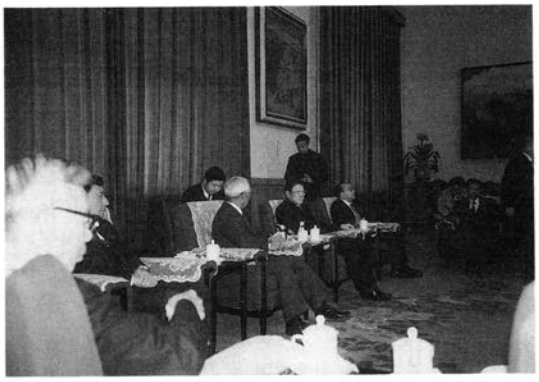
〔日本山岳会〕今西寿雄（登山委員会委員長）夫妻、藤平正夫、松田雄一両副会長（共に実行委員会副委員長）

〔日中友好協会全国本部〕村岡久平副理事長

〔読売新聞社〕加藤博久（専務取締役編集局長）、本池慈夫（外報部長）、島田公博（運動部長）

〔NHK〕片山健二（報道局長）、金子与志一（チーフプロデューサー）、吉田健二（映像取材部副部長）

民族文化宮における祝賀会


中国要人の登山隊接見

一行は十一月十六日、全日空九〇五便にて成田発、北京に到着した。その晩は中国登山協会主催の歓迎夕食会が、山西料理の晋陽飯荘で行われ、史占春主席等と旧交を温めた。

翌十一月十七日は午前九時より人民大会堂において、季鉄暎（国家教育委員会主任）、伍紹組（国家体育運動委員会主任）等中国要人の登頂隊員に対する接見があり、訪中祝賀団も同席した。席上、季、伍両主任より、お祝と労をねぎらう言葉があり、登山隊を代表して、山田総隊長より謝辞が述べられた。ついで日中両登山隊長より、登山の状況説明があり、日本から持参したプラーグ（記念の楯）が、山田総隊長より季鉄暎主任に贈呈された。最後に両首脳を中心に参会者全員による記念撮影が行われ、午前の公式行事は終了した。

この日は夕刻より、民族文化宮において、公式祝賀会が開催された。

この祝賀会には、国家体育運動委員会、中国登山協会、西蔵登山協会、中日友好協会関係者等約一〇〇人が出席して盛大に行われ、訪中祝賀団の他、駐北京大使館の荒木喜代志参事官も出席した。

席上、中国登山協会史占春主席より登頂隊員に対し登頂証明書が手交され、祝賀団が持参した、記念のプラーグ（楯）が、袁偉民中国国家体育運動委員会副主任、史占春中国登山協会主席、洛桑達瓦西蔵登山協会主席に対しそれぞれ贈呈された。

十一月十八日は、午前中にお世話になった全日空北京支店、野川支店長を、藤平、松田両副会長が表敬訪問して謝意を表し、午後の全日空九〇六便にて帰国する登山隊員と共に北京を後に帰国の途についた。（Y・M）

ナムチャ登山隊の帰国と
訪日中国祝賀団の来日

ナムチャバルワ登山隊の一行は、十一月十八日、二十時、全日空NH九〇六便にて成田着、盛大な出迎えを受けて、帰国した。

〔スポーツ功労者表彰〕

翌十九日、午前十時三十分、登山隊山田総隊長以下十一名は、松田副会長、小倉常務理事に付添われ文部省に帰国報告、スポーツ功労者表彰式に出席した。

席上、鳩山邦夫文部大臣より、表彰理由の説明があり、登山隊員全員十一名に対し、表彰状ならびに目録が贈られた。

式典終了後、鳩山文部大臣、奥田体

育局長を表敬の後、登山隊事務所に戻り、今後の日程、報告書作成等についての事務打ち合わせの後、午後二時、登山隊員はそれぞれ、帰郷の途についた。

〔訪日中国祝賀代表団の来日〕

十一月二十六日、袁偉民団長以下十三名の代表団が、CA九二六便にて十四時五十五分成田着来日。ここで日本滞在中の趙建軍氏が通訳として合流。代表団十四名は次の通りである。

▼団長＝袁偉民（中国国家体育運動委員会副主任）

▼顧問＝吉普・平措次登（西蔵自治区人民政府副主席）

▼秘書長＝史占春（中国登山協会主席）

▼団員＝洛桑達瓦（登山隊総隊長）、王鳳桐（登山隊副総隊長）、于再清（中国体育発展公司総経理）、高謀興（西蔵登山協会秘書長）、登山隊員＝桑珠登攀隊長以下六名、趙建軍（通訳）

一行は二十六日夜は、読売新聞社主催の歓迎夕食会に出席した。

翌二十七日は、山田総隊長、松田、橋本委員等に伴われ、桜内義雄衆議院議長（登山隊総顧問）、NHK、鳩山文部大臣等を表敬訪問し、夜は帝国ホテルにおける公式登頂祝賀会に出席した。（編者注　別稿「ナムチャバルワ初登頂祝賀会」参照）

二十八日は、観光・ショッピング等自由行動とし、夜は六本木楼外楼における、本会主催による歓迎夕食会（サヨナラパーティ）に出席した。

二十九日、十三時、帝国ホテル発、成田空港より十七時発のCA九五二便にて大連経由帰国した。（Y・M）

祝　辞

ナムチャバルワ峰日中合同遠征隊の特筆すべき成功と偉大な業績を知り、ここに、遠征隊の皆様に対し、私達の心からのお祝いを申し上げます。またUIAAの会報にて是非共報告させて戴きたいと存じます。

一九九二年十一月二十日ベルンにて

国際山岳連盟（UIAA）会長

Dr.ピエトロ・セガンチーニ

ナムチャバルワ初登頂祝賀会

約三百五十名集い、偉業讃える

日中合同ナムチャバルワ峰初登頂祝賀会が十一月二十七日、東京・日比谷の帝国ホテルで開かれた。

この祝賀会には日本山岳会、日中友好協会、読売新聞社、日本放送協会の関係者、両国登山隊員、訪日祝賀団員、来賓ら約三百五十名が出席。

祝賀会ではまず、橋本龍太郎日本側登山隊名誉総隊長が「あらためて私たちを支えてくれた皆さんに謝意を表します。長い時間の中には大きな犠牲もありましたが、その苦しみをのり越え初登頂に成功し、今は喜びとしあわせの思い出が残っています。今席、中国のお客様をお迎えし、喜びを共にし、日中次世代の若者につなげていきたいと思います」と挨拶。

次いで登山隊顧問を務めた桜内義雄衆議院議長は「今回の計画は緻密にして正確。科学技術を駆使し、気象情報に細心の配慮がなされた。本年の成功は時あたかも、日中国交正常化二十周年に華をそえ、両国の友好関係をさらに深めるものになる」。袁偉民中国国家体育運動委員会副主任は「両国の登山技術の高さに、各団体を代表して祝意を、また日本の関係機関にも敬意を表したい。日中国交正常化以前、両国間にはスポーツ交流があり、今回の成功もその成果である。これは日中国交正常化二十周年という節目に、錦上の花を添えるものである。今後もこの伝統を保ち、両国間の友好親善を進めたい。初登頂成功にあたって、故大西宏隊員の貢献を心に止め置きたい」と、それぞれ来賓祝辞を述べた。

次いで、中国側から日本山岳会に対してペナントの贈呈が行われた。そのペナントには『山海相濟　大功必成　祝賀　中日联合攀登南迦巴瓦峰成功　中国訪日代表団』と縦書されており、山の国（中国）と海の国（日本）の民が協力して事に当れば、大功は必ず成る、という意といわれる。

鳩山邦夫文部大臣からはメッセージが寄せられ、代読した奥田與志清体育局長は、初登頂の成果を讃えつつ、山田二郎総隊長以下登山隊員に対して、文部省としてスポーツ功労者表彰を行なったことに触れられた。

祝賀会風景

来賓の水上健也読売新聞社副社長は「進む時は進み、退く時には退くという勇気果敢な行動は、多くの人びとに感動を与えると同時に、今後の日中友好関係の促進に大きな役割を果した。とくに登頂者支援のため、自らの登頂を断念した重廣恒夫登山隊長の勇気に、心からの敬意を表したいと思う」と述べた。

続いて壇上では、ジーブ・ピンゾツェトン・チベット自治区人民政府副主席、史占春中国登山協会主席、村岡久平日中友好協会全国本部副理事長、斎藤一男日本山岳協会会長、加藤博久読売新聞社編集局長、金子誠嗣日本放送協会報道局映像センター長、金章樹駐日中国大使館公使による鏡割りが行われ、中村和夫日本放送協会放送総局長が乾杯音頭をとった。

会食をはさんで、日中両国登山隊メンバーの紹介、日中登山隊および訪日祝賀団員へのメダル授与や、山田二郎会長から、ロサンダワ・チベット自治区体育運動委員会主任に、日本山岳会名誉会員章授与も行われた。

また会場では、登頂瞬時のビデオも放映され、重廣恒夫登山隊長の解説とともに新たな感動が湧きあがり、会場は拍手に包まれた。

謝辞に立った山田二郎会長は「前年の経験に基づき、気象観測に重点を置き、日中両国隊員の強靱な努力が成果をもたらしたものであり、また、本日ご参会の皆さんのご協力の賜である」と結んだ。

この祝賀会当日は風が強く、寒い一日であったが、祝賀会場に限っては、初登頂を祝う熱気が渦まいていた。

なお、初登頂記録は、NHKスペシャル〝再挑戦ナムチャバルワ〟として、平成五年一月二日午後七時十五分より一時間三十分に亘り放映された。

（写真・**滝沢ちよ子**／文責・**高田眞哉**）

「ナムチャバルワ峰登山隊報告会」も

「ナムチャバルワ峰登山隊報告会」が年次晩餐会に先立ち、同日午後一時三十分より、会場同じく新高輪プリンスホテル・国際パミール「慶雲」の間で開かれた。

約三百五十名が出席したこの報告会は、伊丹紹泰高所登山委員会担当理事が司会を担当。登山隊からは斎藤惇生副総隊長、重廣恒夫登山隊長、山本一夫登攀隊長、三谷統一郎・山本篤・佐藤正倫各登攀隊員、気象担当の飯田肇隊員が出席。

報告会では斎藤副総隊長が総括的に報告をおこない、「日中間のチームワークは緊密で、今回は気象観測に重点を置き、最精鋭のメンバーをそろえたことが成功につながった」と強調。山本登攀隊長はC5から頂上にかけての説明を、重廣登山隊長はスライドを使って登頂までの概要を説明。飯田隊員は「ナムチャバルワの気象条件を予知する条件は最も厳しく、気象ロボットによる自動気象観測システムにより、BC、C3で気温、湿度、風向、風速、気圧、雪温勾配の一時間毎の自動計測を使用して、BCで毎日回収した」と報告、「高いところでも雪が沢山降る。山頂直下にはクレバスがある。南岩壁にはつららが観測された」などの特徴を述べた。

続いて広島山の会四姑娘登山隊報告会では、桑原良敏総隊長がスライドを使って説明。マッキンリー気象観測機器設置登山隊第三次登山一九九二年報告会では、大森弘一郎科学研究委員会担当理事が説明に立った。

なお、各隊の報告にはそれぞれ資料が配布された。

（**高田眞哉**）

青海省登山協会訪日代表団本会を表敬訪問

本年六月青海省の玉珠峰国際キャンプに参加して、友好を深めてきた、新潟県山岳協会（会長＝室賀輝男本会評議員）は、中国・青海省登山協会（QMA）との間に兄弟山岳会の関係を結ぶことになり、この調印のため、馬呈祥氏（青海省体育総会副主席）を団長とする一行五名が、新潟県山岳協会の招きで来日した。

一行は馬団長以下、呉延義（QMA秘書長）、張俊岩（中国科学探検協会理事・副秘書長）、孫建軍（QMA）の他、通訳には昨年秋、秋田支部の紹介で本会を訪れたことのある辛国瑛氏（QMA通訳）。

帰国前日の十一月二十一日㈯十五時半、一行五名は本会越後支部の五十嵐篤雄、藤井信の両氏に伴われ、本会を表敬訪問した。これに対し本会からは松田副会長、神崎、重廣両常務理事、藤井理事等が出席し旧交を温めた。

席上馬団長より、今回のナムチャバルワ初登頂に対する祝意が述べられ、本会宛記念の掛軸用の巻書が贈られた。西寧の著名書家米徳寿先生（中国書法家協会青海分室名誉理事・西寧市書協会副主席）の揮毫になるもので、

黄河之水通江戸
珠穆峰連富士山

〔編者注〕"黄河の水は江戸に通じ、チョモランマの峰は富士山に連らなる"と両国の友好を表わす何よりの贈物であった。本会では表装し資料委員会で保管することにした。

青海省登山協会の一行を迎える。於ルーム

また呉秘書長からは、今回の来日中に、従来より外国登山隊に開放されていた山八座に加え、新たに次の六座が開放された旨のホット・ニュースが伝えられた。

〔山　名〕	〔標　高〕	〔所属山系〕
馬蘭山	（五七九〇㍍）	崑崙山脈
湖北氷峰	（五七六九㍍）	〃
五雪峰	（五八〇五㍍）	〃
大雪峰	（五六八三㍍）	〃
唐古拉山	（六二九五㍍）	唐古拉山脈
龍亜拉山	（六一〇四㍍）	〃

以上の六座は、何れも素晴らしい山であるので、是非日本の登山隊に登って貰いたい。また来年以降も、国際キャンプを計画しているので、JACからも是非参加して欲しい旨の希望が述べられた。

詳細については、左記青海省登山協会宛（日本文でも可）FAXで問合わせれば、回答して貰えます。

〔FAX〕001−86−971−76030

〔Y・M〕

クライマー待望の本格的山岳フォト・ドキュメント

ヒマラヤン・クライマー

ダグ・スコット著　坂下直枝＋岩と雪編集部訳

好評発売中！●定価4800円（税込）〒不要

ダグ・スコットは，その半生を高峰の登攀に捧げてきた。彼の足跡は，アルプス，ヒマラヤはもちろんのこと，アフリカやアラスカなど世界中の山々に及んでいる。1975年，今は亡きドゥーガル・ハストンと行ったエヴェレスト南西壁の初登攀でヒマラヤ・クライミングの前線に躍り出たスコットは，つねに新しい課題に挑戦しようという意志力をもって，30年以上にわたって大登攀の修羅場をくぐり抜けてきた。本書は，彼による存在探求の旅を理解するための，大いなるヒントを提供している。

【主な内容】
高山の危険にふれて／イスラムの国々へ／エヴェレスト／遠い土地への短い旅／大いなるとき／ビックウォール・クライミング／人食い鬼の試練／1979実り多き1年／ヒマラヤの巨大な壁／悲劇・敗退／マカルートとチャムラン／仏教徒の国の登山／世界の山々で

■山と溪谷社■〒105 東京都港区芝大門1-1-33／☎03(3436)4055・FAX03(3433)4057

南極観測隊長に本会会員

文部省の南極観測統合推進本部の十二月十三日付の発表によれば、来年十一月に出発する予定の第三十五次南極地域観測隊長（兼夏隊長）に渡辺興亜・国立極地研究所教授（53）―雪氷学（北大山の会）を、同副隊長（兼越冬隊長）に、横山宏太郎・農林水産省北陸農業試験場主任研究員（45）―雪氷学（京大学士山岳会）をそれぞれ決めたとのことである。

従来より南極観測隊には、当会会員が多数参加されているが、今回は正副隊長とも本会の会員であり、久しぶりの山登り屋の両隊長に、その活躍が大いに期待されている。（Y・M）

近畿の名山・一〇〇

宮崎日出一

近畿の山（若狭・三重県を含む）から一〇〇の山を選びました。選定人は私と阪上義次（山想同人・峰）氏の二名。近畿の岳人を始め、日本全国の岳人に広く登られることを期待します。（カッコ内は標高と五万図名）

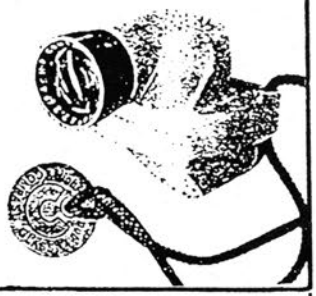
(1)三国岳（一二〇九・横山）、(2)横山岳（一一三二・横山）、(3)金糞岳（一三一七・横山）、(4)伊吹山（一三七七・長浜）、(5)西方ヶ岳（七六四・今庄）、(6)野坂岳（九一四・敦賀）、(7)三重岳（九七四・熊川）、(8)三十三間山（八四二・熊川）、(9)養老山（八五九・津島）、(10)霊仙山（一〇九四・彦根東部）、(11)烏帽子岳（八六五・彦根東部）、(12)御池岳（一二四七・彦根東部）、(13)藤原岳（一一三〇・御在所岳）、(14)竜ヶ岳（一一〇〇・御在所岳）、(15)釈迦岳（一〇九二・御在所岳）、(16)雨乞岳（一二三八・御在所岳）、(17)御在所岳（一二一二・御在所岳）、(18)鎌ヶ岳（一一六一・亀山）、(19)入道ヶ岳（九〇六・亀山）、(20)仙ヶ岳（九五五・亀山）、(21)堀坂山（七五七・二本木）(22)白猪山（八二〇・二本木）、(23)獅子ヶ画（七三三・伊勢）、(24)尼ヶ岳（九五八・名張）、(25)大洞山（一〇一三・名張）、(26)学能堂山（一〇二二・高見山）、(27)倶留尊山（一〇三八・名張）、(28)古光山（九五三・名張）、(29)住塚山（一〇一六・名張）、(30)額井岳（八二二・桜井）、(31)局ヶ岳（一〇二九・丹生）、(32)三峰山（一二三五・高見山）、(33)高見山（一二四八・高見山）、(34)薊岳（一四〇六・高見山）、(35)池木屋山（一三九六・大台ヶ原山）、(36)迷岳（一三〇九・高見山）、(37)古ガ丸山（一二一一・大台ヶ原山）、(38)仙千代峰（一一〇〇・大台ヶ原山）、(39)白髪岳（一三七八・大台ヶ原山）、(40)日出岳（一六九五・大台ヶ原山）、(41)高峰山（一〇四五・尾鷲）、(42)竜門岳（九〇四・吉野山）、(43)山上ヶ岳（一七一九・山上ヶ岳）、(44)稲村ヶ岳（一七二六・山上ヶ岳）、(45)大普賢岳（一七八〇・山上ヶ岳）、(46)八経ヶ岳（一九一五・山上ヶ岳）、(47)釈迦岳（一八〇〇・釈迦ヶ岳）、(48)中八人山（一四〇八・釈迦ヶ岳）、(49)笠捨山（一三五二・十津川）、(50)玉置山（一〇七六・十津川）、(51)子ノ泊山（九〇七・新宮）、(52)烏帽子山（九〇七・新宮）、(53)大塔山（一一二二・栗栖川）、(54)法師山（一一二〇・栗栖川）、(55)冷水山（一二六二・竜神）、(56)牛廻山（一二〇七・竜神）、(57)護摩壇山（一三七二・伯母子岳）、(58)伯母子岳（一三四四・伯母子岳）、(59)清冷山（八七八・川原河）、(60)白馬山（九五七・動木）、(61)生石ヶ峰（八七〇・動木）、(62)竜門山（七五六・粉河）、(63)和泉葛城山（八五八・岸和田）、(64)岩湧山（八九七・五条）、(65)金剛山（一一二五・五条）、(66)大和葛城山（九五九・五条）、(67)二上山（五一七・大阪東南部）、(68)生駒山（六四二・大阪東北部）、(69)鷲峰山（六八五・奈良）、(70)ポンポン山（六七九・京都西南部）、(71)愛岩山（九二四・京都西北部）、(72)比叡山（八四八・京都

手のひらサイズの高精度方位望遠鏡
コンパスグラスHB－3

視界10°倍率2.2の明るい視界に透明なコンパスが重なって見えます。見た目標がそのまま正しい磁気方位です。フォーカスフリー　方位自動追尾　耐水圧50m耐高度1万m　重量70g　水面浮上　灯台三点測定のプロ仕様　カタログ代無料　電話かFAXでどうぞ。

外装黒色 ¥17,000
黄橙色 ¥18,000
消費税 別
送料 ¥ 440

東京都練馬区上石神井1丁目37番13号
株式会社 石神井計器製作所
電話 03－3928－5411
FAX 03－3928－5411



東北部）、(73)武奈ガ岳（一二一四・北小松）、(74)蛇谷ガ峰（九〇二・北小松）、(75)峰床山（九七〇・北小松）、(76)皆子山（九七二・北小松）、(77)百里ガ岳（九三一・熊川）、(78)長老ガ岳（九一七・綾部）、(79)青葉山（六九三・丹後由良）、(80)太鼓山（六八三・網野）、(81)磯砂山（六六一・宮津）、(82)大江山（八三三・大江山）、(83)東床尾山（八三九・出石）、(84)妙見山（一一三九・村岡）、(85)扇ノ山（一三一〇・若桜）、(86)氷ノ山（一五一〇・村岡）、(87)三室山（一三五八・坂根）、(88)後山（一三四五・坂根）、(89)日名倉山（一〇四七・佐用）、(90)藤無山（一一三九・大屋市場）、(91)段ヶ峰（一一〇三・大屋市場）、(92)雪彦山（九一五・山崎）、(93)笠形山（九三九・生野）、(94)千ガ峰（一〇〇五・生野）、(95)粟鹿山（九六二・但馬竹田）、(96)三岳（七九三・篠山）、(97)白髪岳（七二二・篠山）、(98)剣尾山（七八四・広根）、(99)六甲山（九三一・神戸）、(100)諭鶴羽山（六〇八・由良）

一九九二年十一月選定

チャンジーよりの便り

石村実・日満子

一、川崎精雄さんからの依頼で、会報をお送りいただき有難うございました。

二、住所変更

〔旧〕岩手県岩手郡玉山村大字下田字生出八九四

〔新〕中国、新疆、昌吉市、園芸場

〔留守宅〕〒252藤沢市遠藤八六七～七デュエットD－二

☎〇四六六－八八－六五二四

昌吉はチャンジーと読みます。ウルムチの西三十五キロ、農業の町です。漢族、ウイグル族、回族、ハザック族等十三民族がいます。この間病院のカルテの民族欄に「大和民族」と若い医者が書いてにっこりしました。私共は夫婦で来て園芸場の宿舎に住み、農業指導をしています。

ボゴダ峰（五四四五）が見える見えないで一日が始まります。五階建アパートの四階の我家のトイレから真東のポプラの梢の上に新雪をつけて見えます。先日は満月の下崇高なまでに美しいボゴダを眺め、一句ものにしました。〝俺もまあ、シルクロードのうんのつき〟

俳句

小林碧郎

縄文杉・宮の浦岳

寝袋の冷えし目覚めに虎鶫（つぐみ）

杉邃（ふか）き木霊（こだま）となりぬ虎つぐみ

海坂（うなさか）を抽（ぬ）く石楠花の縦走路

山霧に屋久杉の秀（ほ）はささらなす

黄鶺鴒（きびたき）や幹赭々（あかあか）と杉浄土（じょうど）

鹿の仔に網なす太根越えがたき

駒鳥は千年杉の根に巣立つ

汗冷えて縄文杉に手触れけり

寝袋に太古の森の明易し

清水掬（く）み縄文杉に訣（わか）れけり

山蟹（やまがに）の白きが散りぬ軌道橋

仏桑花海風に干す旅ごろも

海紅豆子連れの猿も夕涼み

鹿の仔の瞠（みは）る蟬声俄かなり

海亀のあと寥々（りょうりょう）と昼の浜

（九二、六、三～五）

三水会集会・金峰山・金山平

色そめし苔桃噛むや露しぐれ

雁渡し五丈巌かげ富士澄める

秋晴の瑞牆山を見下しに

金山の碾臼（ひきうす）のこる葛の花

抜け出でし宴（うたげ）の外の天の川

（九二・九・五～六）

図書紹介

百歳までの山登り

冨田弘平著

表紙は尾瀬ヶ原の夏、にっこうきすげの群落が描かれ、裏表紙は上高地秋色の七宝絵で、本の題名に反する色彩り美しい本という感じである。

マロリーの「山がそこにあるから」ではなく「山に魅かれて」十歳代から歩き始めた著者は、日本および世界の山登り、山歩きをして、その広い視野による話題豊かな紀行と随想を纏め、趣味を結びつければ、百歳まで登り続けられるだろうというのがこの本を書いた主目標であるらしい。

最近高老年層が増えそのほとんどが健康保持または足腰を鍛えることが目的で山登りをしているが、最初のうちは高みに登ることに専念するのみで、歩けるうちに登っておきたいとあせり気味であることは、危険性があるが、年齢にふさわしい登り方をしていれ

ば、生涯現役で、既に百歳でも今も山へ登っている人が事実いるのに驚くばかりである。

これは日本人の生活環境や健康管理や医療体制が良くなってきたことによって、寿命が延びていることは事実だが、山登りあるいは山歩きもその内容を広げることによって、かなりの年齢層まで続けられると言うのが、この本のねらいのようである。

生命をかける厳しい山登りはある年齢に達するとやめる人が多いが、趣味があり目標があれば生涯山登りができるという訳である。山を楽しみ自然に触れ合える秘訣こそ生涯登山につながるものだろうと、著者は、写真や絵やその他いろいろの趣味に生きて、百歳まで山登りを続けるつもりだと言う。

平成四年六月　新ハイキング社刊
B6版　三六二頁　一八〇〇円
（坂倉登喜子）

七大陸最高峰に立って

田部井淳子著

約三時間で読んだ。読後の感想としては、非常に解り易いがしかし偉大な業績、しかも正確かつ格調高く、「子ども向き」に書かれたというが、大人でも大変面白くしかも充分に勉強になる内容だったと思う。

本書は八章から成っているが、第二章の「私の子どもの頃」以外は世界の七大陸の最高峰の名前が著者の登頂順に並べられている。即ちエベレスト、キリマンジャロ、アコンガクア、マッキンリー、南極の最高峰ビンソンマシフ、コーカサスの名峰エルブルース、そして最後はオセアニアの最高峰でニューギニアにあるカルストン・ピラミットである。どれもこれも感動を呼ぶ素晴らしい登山記録だ。そして各所に判り易いイラストや貴重な記録写真、さらに巻末には一般の人にも判り易いよう登山用語の解説まで付けられている。

著者は一九七五年、女性としては世界で始めてエベレストの上に立った。その時の記録は第一章、一〇〇頁におよぶ。さすがに感激の登頂だったに違いない。本書としてはやや異質の第二章では著者の自己紹介ともいうべきもので、福島県の三春町（みはるまち）に生まれ、始めての登山は那須岳だったと書かれている。だからこの那須登山を原点としてここから世界の田部井がはばたいて行ったのである。

第三～八章、どの登山も極限の世界に挑戦しておりながら、田部井さんの円満な人柄を表わして、非凡なる業績を残しているにもかかわらず、決して偉らぶらず、坦々と書かれているし、全編に溢れる限りない家族への愛情に思わずホロリとさせられる。

家庭の主婦そして登山家さらにHAT－J（日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト）の代表として自然保護活動に励むなど八面六臂の活躍を続ける著者がよく本書を執筆することができたものだ、と田部井さんを知る者にとってもこれも驚異だ。あとがきによれば「机の上で書いた、というのはこの『あとがき』だけである、あとは電車や飛行機の中や待合室やホテルの片すみで綴ったという。まさにスパーウーマンではなかろうか。しかも本書の印税の一部はHAT－Jに寄付するともいう。

なお、この女性初の七大陸最高峰登頂は、本年の「スポーツ功労者表彰」に輝く業績であった。

一九九二年十一月二十日　小学館刊
B5版　二五一頁　定価一四〇〇円
（小倉　厚）

「ヒンズークシュの名峰 TIRICH MIR (7,708 m)」

日本・パキスタン合同テイリッチ・ミール登山隊の記録
日本山岳会京都支部刊

日本山岳会京都支部が、一九九一年に支部創立五周年を記念してパキスタンのアドヴェンチャー・ファウンデーション（A・F・P）と合同で行ったテイリッチ・ミール登山隊の記録である。

この合同登山は日本側隊長が数年前、登山のためにイスラマバードでたまたま同じ車に乗り合わせたパキスタン青年との出会いより始まる。きっかけはまったくの個人同士、民間レベルの合同であったが、日本とパキスタン双方による計画と準備ののち、日本側隊員二名が登頂に成功し、その結果、パキスタン大統領より両国隊員が招待を受けるなど両国の親善に発展し、登山交流に貢献した登山活動の計画、準備、帰国までの報告である。

この登山隊のもう一つの特徴は、出発時より山の環境保護のためゴミの処理を念頭に登山計画をたてたことである。ゴミ処理担当者を決め、計画段階から自分たちの出すゴミはもちろんのこと、ベースキャンプに残っていた他の登山隊のゴミの完全清掃を行ない、不燃ゴミの持ち帰りを行った。残念だったのは、登山活動中に隊員の一人が高所脳浮腫に陥り、その救助活動のため、上部でのテントの放置、フィックス・ロープを残置せざるをえなかったことである。

高所医学に関しても特記すべきことが多い。七三〇〇㍍のC4で脳浮腫を

体験し、危ういところを救助された隊員自身による「脳浮腫体験記」がスリリングでドラマチックである。また、この登山隊の総隊長であり、自ら六十歳で八〇〇〇㍍峰（シシャパンマ）に登頂した医師である、斎藤惇生京都支部長の高所医学に関する自らの豊富な経験に基づいた解説は実践的であり、今後高所登山を目指すものにとってたいへん参考になる文献と考える。

一九九二年　日本山岳会京都支部刊
一六三頁　（杉山イタル）

句集　薄雪草

渡辺立男著

著者は本会会員で、俳句結社「馬酔木」の同人でもある。甲州身延に近い栃代出身の著者が、故郷の山谷にはじまる山を対象とした俳句に一部身近句を交じえ、昭和二十八年に始まる永い作句活動の成果から六一八句を精選し、山椒魚、駒草、雨ヶ岳、山法師、岩ひばり、慈悲心鳥、の六章にわけて纏めあげた処女句集である。巻頭を飾る色紙

山蜻蛉立男ポッカの荷をはなれ

は昭和三十二年夏、師水原秋桜子夫妻を立山へ案内した折の秋桜子の作で、師のポッカを努めた彼の姿を親愛の心から詠みとらえたもので、人名のはいった俳句として貴重なものである。また著者はスケッチ、水彩画をよくし、本会のスケッチ・クラブに属し本年一月、第一回ＡＳＣ作品展を催した折、ポスターに使用した自作の「焼岳」で本書の見返しを飾っている。山国の生活を知る彼の俳句は人柄のにじみ出た穏やかな作風ながら、自然を深いところで的確に把握し随所に秀句がなされている。

年祝ぎの岩攀づる列尾根にあり
おこぢょ馳せ岩間きらめく霜の華
冬籠るやまねに栂の雪ふかし
尾根わたる烈風雪崩はじまれり
鳳凰小屋五月の星の渦のなか
残雪に荷を解きひろぐ小屋開
山椒魚這うさびしさや岳並ぶ
薄雪草早池峰の神やどりたる

三十年来、俳句と山の仲間として幾多の山行を共にした私には、懐しい山々の思い出につながる俳句ばかりであるが、本書も俳人としての句業を俳壇に問うもうのでもあれば、作句年代順に組まれまた極力、ルビ、前書き、が省かれたのは残念ながら致し方がない。

山行句のみで全巻を充し得なかったとは言え、著者は現俳壇にあって数少い山岳俳句の作者である。

平成四年八月一日発行　朝日新聞出版会刊　Ａ５版　二三一頁　定価二七〇〇円　（小林碧郎）

報告

平成四年度全国支部大会「英彦山の集い」

福岡支部

平成四年度全国支部大会「英彦山の集い」が十月三十一日、十一月一日の二日間開催され、全国から一五五名の会員が参加した。十月三十一日はアドベンチャー森の家で足利武三氏により「九州の山々」と題する記念講演があり、また地元添田町の町長からは歓迎のご挨拶をいただいた。懇親会は国民宿舎ひこさんに会場を移して行われた。地酒「英彦山」の鏡割りに始まって和やかな宴が続き、各支部のユニークな紹介で盛り上がった。

十一月一日はあいにくの雨模様であったが英彦山に出発した。高住神社から北岳をへて中岳へのルートをとり、中岳から南岳を往復の後奉幣殿へ下山した。英彦山は昨年の台風で杉の大木が大きな被害を受けていた。下山するうちに雨も次第にあがり、美しい紅葉が目を楽しませた。奉幣殿で記念写真をとり、国民宿舎ひこさんで解散した。

（継松久美男）

ナムチャバルワ峰登山隊支援トレッキング隊報告

関口令安

一、概要　十月十日から二十六日まで、日本山岳会会員を主体とする九名の隊員によって、ナムチャバルワ峰登山隊支援隊がベースキャンプ訪問のためトレッキングを行った。ラサ市から七〇㌔の地点で、交通事故に遭遇し日程の変更を余儀なくされたが、怪我はなくまた顕著な高度障害に罹った隊員もなく、楽しいトレッキングを堪能した。ベースキャンプ到着は予定より一日遅れの十月十九日になった。山田総隊長ならびに斎藤副総隊長ら大勢の方々に出迎えられるなか九名全員無事に到着した。残念ながら登山隊は天候に悩まされ我々の訪問時点では登頂には到らなかったが、重廣隊長に直接逢うことができ、緊張感と苦労の状態を垣間見ることができた。十月二十二日は早朝から快晴となり、ナムチャバルワ峰の全貌を眺めることができた。記念撮影後、日中の多勢の登山隊の人々に見送られながら登頂の成功を祈願しつつ下山した。帰路は順調に予定通りの日程で無事帰国することができた。

二、隊員構成　関口令安（六七七七）、北原秀介（八二六七）、中沢光江（八

四四五）、山崎大造（九九七六）、山口一美、丸山文恵、島千映子、千原亜矢子、張晶子（北京在住）以上会員外隊員

隊員数が九名で車での移動、食事など全てにおいてOne Packで行動ができ好都合であった。一名、北京在住の女性隊員が格好の通訳係となってくれたため、日常生活や観光案内にたいへん重宝であった。

三、行動記録

十月十日㈯　一五・三〇　CA九二六便にて北京に向かう（中沢隊員を除く七名）、一八・二〇北京空港着

中国登山協会營道水交流部部長、蔡晶部員の案内で前門飯店到着、先着の中沢隊員の出迎えでチェックイン

十月十一日㈰　夕方、全聚徳北京烤鴨店にて中国登山協会の方々による歓迎晩餐会。陣尚仁常務委員、營道水交流部部長、楊世涛交流部副部長、王海銀交流部副部長、蔡晶交流部部員が出席。

十月十二日㈪　前門飯店　出発　營道水氏同行　八・一五空港到着　張晶子隊員合流　九・五〇中国西南航空四一〇二便にて成都へ　一二・二五成都空港着　四川省登山協会王華山氏の案内でホテルへ　西蔵飯店宿泊

十月十四日㈬　ラサ到着チベット登山協会巴桑次伝氏の出迎えあり、ラサ飯店宿泊

十月十七日㈯　七・〇〇朝食　八・五五ランドクルーザー二台パジェロ一台に分乗し出発　一〇・〇五ラサ市から七〇キロの地点　达攷と墨竹工卡の県境辺りで交通事故に遭遇　ランドクルーザー一台大破のため約四時間待機、ラサ市から代替え車の到着を待つ、幸い乗員、隊員に怪我はなし一四・一五三台に分乗し再出発したが、一五・五〇ミラの標高五〇〇〇㍍地点でパジェロの右後輪デスクが加熱、パジェロ脱落。ランドクルーザー二台に運転手を含めて十三名が分乗して走行した。一九・五〇ラサ市から二九〇キロ走行して、工布江达の街道筋の宿泊所に到着　工布江达宿泊

十月十八日㈰　七・一〇　朝食も摂らずにランドクルーザー二台に分乗し出発　一二・四〇八一鎮招待所到着　八一鎮招待所宿泊

十月十九日㈪　ランドクルーザー三台に分乗し出発　一二・三七格嘎到着　読売新聞内炭洋氏、通訳李豪杰氏の出迎えあり、一三・三〇内炭、李両氏の案内で出発、一五・四〇～一六・三五の間に全員ベースキャンプ到着　山田総隊長、斎藤総副隊長らの出迎えをうけてお茶とビールのもてなしに感激

十月二十日㈫　八・五五斎藤総副隊長、小島ドクターの案内でC1へ

十月二十一日㈬　一〇・〇〇山田総隊長、斎藤総副隊長、内炭氏の案内で隊員六名参加して裏山登山、合憎くの雨模様で山は見られず。一七・〇〇重廣隊長、梶田隊員BC到着

十月二十二日㈭　快晴　ナムチャバルワの全貌が見られ全員写真撮影に余念なし。一〇・二〇山田総隊長など大勢の人々に見送られ下山開始　八一鎮招待所宿泊

十月二十三日㈮　六・五〇八一鎮招待所出発　一六・三五ラサ飯店到着　一九・三〇西蔵国際體育旅游公司總經理蘇平氏主催の歓迎会　ラサ飯店宿泊

十月二十四日㈯　FL四四〇二便にて成都へ　離陸後二十分位、右側雲海の上にナムチャバルワが浮んで見えた。西蔵飯店宿泊

十月二十五日㈰　六・三五西蔵飯店出発　七・〇五成都空港着　八・一五四川空港一四九便で北京へ　一〇・一五北京空港到着　中国登山協会の皆さんの出迎えあり　前門飯店宿泊

十月二十六日㈪　CA九二九便で上海経由成田へ向かう（中沢隊員および中国登山協会の皆さんに見送られ七名、中沢隊員は夕方の全日空便　張隊員は二十五日帰宅）　八・五〇北京空港発　上海虹橋空港経由　一四・四五成田空港到着（中沢隊員深夜着）

このトレッキングの企画をしていただいた日本山岳会、BCで歓迎をしていただいた登山隊、報道隊の皆様にお礼を申し上げますとともに、準備と旅行中のマネージメントを引き受けて頂いた中沢光江隊員にお礼を申し上げ、全員無事帰国の報告と致します。

第29回学生部マラソン大会報告

九二年十一月八日㈰、皇居外周コースにおいて、第二十九回学生マラソン大会が行われた。

当日は小春日和の好天の中、二十五大学・三十五チーム・一四〇名の参加のもと、午前中に団体戦（一チーム四名・各一周・五キロ）、午後から個人戦（男子三周・十五キロ、女子二周十キロ）の順で行われた。

団体戦では早稲田大学Aチームが、二位の上智大学に二分以上の大差をつけて余裕の優勝を飾り、今大会五連覇を達成した。また個人戦では、二周目まで五、六人が先頭集団を形成する好レースとなり、混戦の中から成蹊大学の佐藤君が抜け出し優勝した。

競技終了後、参加者全員に賞品が手渡され、互いの健闘を讃え合い、次の

山行計画を話し合う光景があちこちで見られた。

部員数減少に悩む大学山岳部にとって、早稲田大学の連覇をはばむためにも、早急な部員確保の必要性を痛感した一日であった。

〈大会成績〉

団体戦

一位　早稲田大学Aチーム
二位　上智大学
三位　早稲田大学Bチーム
四位　成蹊大学
五位　日本大学Aチーム

個人戦（男子）

一位　佐藤（成蹊大学）
二位　椎名（早稲田大学）
三位　鈴木（立正大学WV）
四位　富沢（成蹊大学）
五位　鈴木（早稲田大学）

個人戦（女子）

一位　西尾（日本大学）
二位　白沢（明治学院大学）
三位　菊地（成蹊大学）
四位　大久保（明治大学）
五位　足立（東京農業大学）

（田中清隆）

学生部のマラソン大会風景

科学研究委員会 探索山行報告

一九九二年の科学研究委員会主催の探索山行は、平成四年の十月十七・十八日の両日紅葉の群馬県月夜野町上牧温泉辰己館を足場として行なった。

第一日は「谷川連峰の地形と地質」を中心に、元群馬県立安中高等学校校長小林二三雄氏の講義をうかがった。

内容としては、谷川岳山頂部から西黒尾根や天神尾根にわたって分布している蛇紋岩は谷川岳から西へ向かって標高一八〇〇㍍付近でなくなってしまう。これより西方では蛇紋岩の分布がまったく見られないのでこの付近に大きな断層線があるものと考えられる。しかも現在この付近には高速道路のトンネルが走っているとのことだ。

吾妻耶山と大峰山、それと三峰山は利根川をはさんで東西に相対しており、その距離十キロメートルと離れているので関係がないように思われているが、地質学的には親子、兄弟の関係にある。大峰山や三峰山の中腹に目がちかちかするほど真白な崩壊地がつくられていて、土地の人は、この岩石があまり白いので「白っかけ」と呼んでいるが、これは軽石凝灰岩であり、約一千万年前の火山活動により石尊山付近が供給源といわれている。

その他、フィールドワーカーとしての苦労話を交えて楽しい講義であった。

夕食の後に、第二部として利根川の源流大水上山への遡行記録をスライドにより説明をされた。

第二日は午前八時三十分全員による記念撮影を行ない、ホテルの用意してくれたマイクロバスに便乗し、阿能川から分かれた林道をトンネルの手前で下車し、指導標に沿って山道に入る。

手入れの不充分な杉の植林帯を通って稜線にでると間もなく仏岩につく。小林先生は植物にも造詣が深い。木々の説明や地質について解説をうけながら紅葉の中をのんびりと歩いた。

途中ブナの大木に熊の腰座を見つけた。その幹に真新しい熊の爪跡が残っていた。

吾妻耶山の山頂からの眺望は、谷川岳は残念ながら雲の向こうであったが、秋の日だまりでゆっくりと昼食をとった。

山葡萄を摘んだり山栗を拾ったりしながら、吾妻耶山、大峰山と縦走して大峰沼へ出た。周囲一キロメートルの大峰沼にある浮島は本州最大で最古のものとの話であった。

帰りは水分不動尊から小和地集落へ下り再びマイクロバスでホテルへ戻り解散した。

参加者　小林二三雄、三沢一三、望月計市、斉藤敏男、久保孝一郎、里見清子、大塚玲子、須藤節子、赤羽昭夫、北村義男、川上進、白鳥勝治、伊藤主税、石田尭子、徳久球雄、鳥居亮、中村純二、中村あや、高橋詢、森武昭、石井恵美子、北野忠彦、近藤雅是、石田要久

（石田要久）

H・Cサリーンご夫妻とキャプテン・コーリを囲む会

松本市でのUIAA総会に出席のため来日されたインド登山財団（IMF）名誉総裁H・Cサリーン氏ご夫妻と、現総裁キャプテン・コーリを囲む会が十月十三日国際文化会館で開催された。

田口二郎名誉会員のスピーチ、松田副会長の乾杯に始まり、インド大使館、

インド航空関係者やキルギス共和国の三人の登山家などが加わって和やかな会であった。

会なかばに、オーストラリヤから一時帰国の中村テルさんにより、女性懇談会からの寄付金がＩＭＦに贈られ、今後も女性登山にお力添え下さるようユーモア溢れるスピーチがあった。また、現在募金中の『サリーンさんの（ライフワーク）を支援する会』のカンパの一部（一万ドル相当）が吉田宏さんからサリーンさんに手渡された。

サリーンさんからは、三田さんから始まったＪＡＣとの深いかかわり、合同登山のことなど、そして建設中であるインド脊椎障害者センターについてのご説明をいただいた。（このカンパは、イタリヤ政府援助を除くと最多額である由。カンパ下さった方々に厚くお礼申し上げます）

コーリ氏からは、来年のインド女子エベレスト登山に、寄付金を有効に使わせていただくとの感謝のスピーチがあった。

最後に、サリーン夫人に日本人形が贈られ、互いに写真をとりあって閉会した。（出席者四十七名）

お三人は出発前の慌ただしい中、インドとのかかわりの深かった高本信子さんのお墓にお参りされ、高本さんの母上はもちろん、私たちも大変ありがたく思ったことだった。（山口）

『サリーンさんを支援する会』へのカンパは継続中です。有志のご協力をお願いいたします。（振込用紙はルームまで）

会務報告

評議員会

平成四年十一月十一日午後二時～四時
場所　本会会議室

出席者　藤平、松田両副会長、鴫原、西村、吉村、奥原、室賀、国見、大塚、鈴木、橋本の各評議員、小倉常務理事（委任）今西、徳久、広江、田部井、西丸、佐藤、河野、湯浅各評議員

◇議事

鴫原評議員が議長となり、議事に入る。

(1)名誉会員制度継続の是非について、鴫原評議員より評議員一同に諮ったところ、万場一致で本制度の継続を承認した。

(2)名誉会員推薦に関する内規改訂の件

本内規第三条の改訂理由につき西村評議員より説明あり、本件承認する。

(3)本年度名誉会員推薦の件

種々検討の結果、太田敬、橋本誠二、村山雅美、坂倉登喜子の四名に加え、山田会長より要望のあったチベット登山協会の洛桑達瓦主席（ナムチャバルワ中国側総隊長）を加え、計五名を山田会長宛推薦することにした。ただし山田会長が帰国するまでは公表しなことも併せて申し合わせた。

(4)会長特別表彰の件

西村評議員より「会長特別表彰に関する内規」案の説明があった。この内規にも規定の改廃は理事会が行うことが明記されており、本件は理事会マターとして理事会に一任することにした。

十一月定例理事会

十一月十二日(木)十八時半～
場所　本会会議室

出席者　藤平、松田副会長、小倉(茂)、大森、大倉、入澤、石橋、伊丹、小倉(厚)、村井、穴田、山口、関口、南川各理事、鴫原、橋本各常任評議員、中島監事

〔委任〕山田会長、神崎、藤井、片岡各理事、西村、湯浅各常任評議員、飯野監事

◇議事

〔審議事項〕

一、ナムチャバルワ隊祝賀会報告会について（小倉茂暉）

(1)北京における祝賀会

平成四年十一月十七日または十八日

訪中祝賀団　ＪＡＣ（今西前会長、夫人、藤平、松田副会長）、「日中友好協会、読売、ＮＨＫ

(2)登山隊帰国　十一月十八日または十九日

(3)祝賀会

日時　十一月二十七日(金)十八時～
場所　帝国ホテル

中国より祝賀団来日　顧問＝吉晋
団長＝袁偉民、秘書長＝史占春、
団員＝洛桑達瓦、王鳳桐、高謀興、桑珠、加布、次仁多吉、巴札西、大斉米、達窮

(4)会員に対する報告会

日時　十二月五日(土)十三～十六時
会場　新高輪プリンスホテル　慶雲の間

承認

＊理事会中に連絡が入り、北京祝賀会は十一月十七日、登山隊帰国は十八日ＡＮＡ九〇六便で確定した。

二、会長特別表彰について（小倉茂暉）

十月理事会で特別表彰内規について承認された特別表彰は会長帰国後、会長と常務理事会に一任。　承認

三、「植村直巳冒険館」（仮）日高町より支援依頼について（小倉茂暉）

兵庫県日高町より「冒険館」を建設する計画がありＪＡＣに対し資料その他支援の依頼があった。　承認

〔報告事項〕

一、山研について（小倉茂暉）

⑴建物について
建物について十二月十二、十三日ごろに完成。
建築審査　十二月十四、十五日ごろ審査が通れば十二月十九日までに建物引き渡しの予定をたてた。平行して下水道埋設工事。
⑵ゴミ問題
生ゴミは処理業者に処理を委託する。カンはつぶして持ち帰り、紙は焼却炉で焼却する。できるだけゴミになるものは持ち込まないこと。
二、合同募金について（石橋）
企業（十一月二日現在）一七〇社　五一、五六二、〇〇〇円　未収金　二〇社　二、八三六、〇〇〇円　会員（十月三十一日現在）一八四八名　二九、七二三、一二九円　女性懇談会　六、一九七、九七九円
三、年次晩餐会について
テーブルマスター、受付、運搬など各委員会のご協力をお願いする。
四、支部懇談会について（英彦山）（小倉茂暉）
十月三十一日、十一月一日　福岡支部の主催により英彦山で行われた。参加者一五八名、東京から五十名が参加し、盛会であった。平成五年度は山梨支部に引き受けていただいた。
五、評議員会（十一月十一日）について（小倉茂暉）
十一月十一日評議員会が開催された。
六、中間会計監査について（中島）
十月十五日松田副会長、大倉理事、飯野、中島監事で中間監査を行った結果、伝票帳簿とも適性かつ正確であった。
七、資料区分別リスト作成について（山口）
区分別リストが完成した。
八、「日韓台山岳交流」について（藤平）
各国間の観光自由化が進み、それにともない登山観光に訪れる人が急増している。雪山にも入る人が増えているため、遭難の心配もある。先日松本でのUIAA大会の席上、韓国、台湾の代表と話し合い、交流の場を持つことになり十一月末に訪韓し、韓国山岳会、大韓山岳連盟の方々にお会いしてくる。

〔各委員会報告〕

総務委員会　年次晩餐会懇親山行　十二月六日㈰陣馬山　一〇名参加申し込み
資料委員会　①松本市立民族資料館に寄託していた絵画二点を修復のため持ち帰った。②海野治良会員「登山用具の変遷」十一月七日講演会を開いた。③年次晩餐会展示品に「蘭花譜」（加賀正太郎）パステル画（榎谷徹蔵）を選定。
フィルムビデオ委員会　①十月二十五日㈰夜又神峠、広河原で撮影会を行った。②十一月六日㈮福原健司会員の「私の尾瀬」「山男」の二本の映写会を開いた。「私と尾瀬」は本会に寄贈された。
青年部　①十月十七〜十八日学生部と共催で小川山集会、②十一月四日㈬学生部と共催で中央大学パミール登山隊報告会開催。
学生部　①十一月八日第二十九回マラソン大会　団体　早大　個人　佐藤（成蹊）　女子　西尾（日大）
集会委員会　①十月十七〜十八日小川山初級岩登り教室を指導委員会と共催　②十一月十一日「森を読むⅡ」講演会
《入会申し込み》井上希夫他十八名（復活四名を含む）を承認

――◇――◇――

次回理事会　十二月十日㈭PM六・三〇
場所　日本山岳会会議室

常務理事会
十一月二十七日㈫十六時〜
場所　帝国ホテル　宝の間
主席者　山田会長、藤平・松田両副会長、小倉、大倉、重廣各常務理事、斎藤、橋本各常任評議員
◇**議事**
山田会長不在のため、審議未了となっていた次の議題につき審議が行われた。
⑴会長特別表彰について
本年度は七大陸の最高峰登頂に成功された、田部井淳子会員を表彰することに決定した。
⑵名誉会員の推薦について
十一月十一日開催の評議員会の推薦案にもとずき山田会長より、次の五名を名誉会員として、年次晩餐会の席上発表したい旨の報告があった。なおチベット登山協会の洛桑達瓦主席については、例外として、十一月二十七日の登頂祝賀会において発表したい旨の発言があり、本件も了承した。
〔新名誉会員候補者氏名〕
・太田敬(76)（会員番号一八九九番）
・橋本誠二(74)（〃二〇一八番）
・村山雅美(74)（〃二四九七番）
・坂倉登喜子(82)（三〇四一番）
・洛桑達瓦(54)（チベット登山協会主席）

支部長会議
平成四年十二月五日㈯十時〜十二時
場所　新高輪プリンスホテル、国際パミール館、紅玉の間
出席者　〔支部長〕小須田（北海道）、中谷（岩手）、岡田（秋田）、大橋（山形）、西郡（宮城）、中島（福島）、本望・山田（越後）、赤羽（信濃）、安間（静岡）、湯浅（東海）、松井（岐阜）、

木戸（富山）、増江（石川）、中村（福井）、斎藤（京都）、阿部（関西）、港（山陰）、吉村・蔵富（福岡）、梅木（東九州）、本田（熊本）、魚本（宮崎）、古屋（山梨）〔理事〕藤平・松田両副会長、小倉、大倉、神崎各常務理事、入澤、石橋、藤井、山口各理事、中川総務委員、以上三十四名

◇議事

(1)会長挨拶…藤平副会長（会長欠席のための代行）

(2)ナムチャバルワ峰登頂報告…斎藤支部長（副総隊長）

(3)上高地山研改築経過報告…小倉

(4)合同募金について…小倉

(5)平成五年度全国支部懇談会について…担当山梨支部

(6)中高年登山対策全国大会…中川

(7)各支部報告…各支部長より、支部の現況、記念行事の計画、当面の問題点等につき、それぞれ説明があった。

福井支部からは、新生支部として支部員を増やす努力をつづけているが、すぐに会員として入会させるか、会友というステップを踏んでから入会させるべきか迷っている旨の発言があった。

京都支部からは、大峯山での高齢会員の単独遭難に直面し、現在も捜索を続けているが、山岳遭難保険について、会としても考えて欲しい旨の要望がのべられた。

共通の問題点としては、会の高齢化問題、中高年登山者の遭難対策等に集中したが、これらの問題は二月の全国大会で検討することになった。

最後に藤平副会長より、韓国訪問の報告があり、定刻十二時閉会した。

（Y・M）

ルーム日誌

（11月）

4日　学生部、青年部
5日　アルパインスキークラブ、自然保護委員会
6日　山研委員会、フィルム・ビデオ委員会映写会・福原健司
7日　資料委員会講演会・海野治良
9日　総務委員会
10日　図書委員会、アルパインスケッチクラブ、学生部
11日　集会委員会講演会・大場秀章
12日　常務理事会、定例理事会
13日　アルパインスキークラブ
16日　資料委員会、総務委員会
17日　フィルム・ビデオ委員会、学生部
18日　三水会
19日　自然保護委員会講演会・小野有五、女性懇談会
20日　図書委員会
24日　総務委員会、自然保護委員会、山研委員会
25日　学生部、集会委員会
26日　アルパインフォトビデオクラブ
27日　高所委員会（遭難対策講演会）
30日　総務委員会

11月来室者564名

会員異動

11月

物故

長谷川暁一（五七三八）　8・2
牛島　宥（六二三三）　8・20
山田　武楠（九六二七）　10・9
五十嵐俊治（四二七九）　11・4
川又　恒一（二七二一）　11・8

退会

伊藤英三郎（六二九六）　11・1
大蝶　達男（六五四九）　11・1
直原　勝一（八三六五）　11・1
木村　眞（七一〇六）　11・30

改姓

小山浩子（一〇五五六）→浅川浩子

山研・ナムチャ合同募金応募状況

（十二月七日現在）

（百口）北陸保証サービス㈱、（四十口）村木潤次郎（計六十口）、福岡支部、（二十口）坂倉登喜子（計四十口）、（六口）山野井武夫、宇田川芳伸、荻野恭一、（四口）河野之保（計八口）、小林碧（計十口）、澤村幸蔵、小林茂（非会員、計十四口）、（三口）森川洋佑、妻藤昭郎、（二口）渡辺徹、加藤輝一、西春彦、森谷虎彦、新妻徹、鈴木捷夫、小澤みち子、向井裕彦、望月力、吉田元、三ッ石清、下澤孝安、中原寛、桑原一郎、古賀久男、桐生恒治（計四口）、西岡譲（計四口）、青山義信、山寺義雄、桑原悌治、佐藤光（計四口）、（一口）上野八郎、鍬守篤磨、和田庄司、今井誠、蟹江健一、吉川勝秀、玉岡憲明、（〇・六口）宮地由文

（累計一千八百八十八名、六千百八十・二口、三千九十七万一千百二十九円）

☎ 3234-6659

この電話でもお知らせしています

◉ポロシャツ予約受付のお知らせ

年次晩餐会において、販売いたしましたJACマーク入りポロシャツ（オーロン・ウール混紡）が短時間にて売切れましたため、会員の方々から多数お問い合わせがございましたので予約受付を行うことになりました。

ご希望の方は事務局までお申し込み

書　籍・雑誌　受入報告　1992年10月

著　者	書　名／雑誌名	版型・ページ	出版元	出版年	寄贈／購入別
大西俊章	宏よナムチャバルワ峰に輝く星になったのか	四六判/177 p.	崑崙舎	1992	著者寄贈
京都山の会出版部	アムド　山旅　青海高原の風土と祭り	A 5/192 p.	京都山の会出版部	1992	発行者寄贈
HAT-J	The International Symposium on Conversation of Mountain Environment	B 5/209 p.	HAT-J	1992	発行者寄贈
信濃毎日新聞社編集局	北アルプス　下	29×21.5/205 p.	信濃毎日新聞社	1992	発行者寄贈
THE MOUNTAIN CLUB OF SOUTH AFRICA	THE JORNAL OF THE MOUNTAIN CLUB OF SOUTH AFRICA	23.5×15.5/230 p.	THE CAPE TOWN SECTION	1992	著者寄贈

下さい。

記

(A)　ダークグリーン（無地）
　　衿・前立がレンガ色

(B)ダークグリーンとベージュの縞
　　衿・前立がベージュ

○サイズ　S・M・L

○単価　八千円

総務委員会

◉平成五年度山スキーのお知らせ

左記の日程で山スキー講習会を行ないます。詳細な計画と、申し込み書は別途個人宛に送付しますので、ハガキにご希望講習会のナンバーを記入の上、山岳会指導委員会宛申し込み願います。

(1) 燧ヶ岳（尾瀬）三月十三～十五日。
　テント泊、自炊。人数制限有。

(2) 巻機山（越後三山）四月十～十一日
　小屋泊、自炊。

(3) 八甲田山（青森）四月十七～十九日
　往復飛行機利用、温泉ホテル泊。

指導委員会

◉16ミリ映画会のお知らせ

フィルム・ビデオ委員会では、福原健司会員のご好意で左記のように映画会を開催いたしますので是非ご鑑賞下さい。

期日　平成五年二月二十五日（木）
　午後七時～

場所　山岳会ルーム

会費　五百円（お茶菓子代）

プログラム・福原健司作品

①「トップスキーヤーは舞う妙高高原」
　日本のトップデモストレーター・金子祐之さんの妙味をヘリコプター撮影で追う豪快な本格的スキー映画。二十分。

②「浩は見た碧い空を」
　槍沢四千㍍大滑降。文部省選定作品、ギャラクシー賞受賞作品。サリドマイド禍障害のハンディを乗り越えてスキーの選手として世界の舞台に立った柳原浩君の活躍ぶりを描いた感動の作品。四月下旬の槍ヶ岳、山仲間の援助を受けて山頂付近から槍沢四千㍍のコースをノンストップで滑降するスキー冒険映画。五十分。

ご一緒にいかが、

◉タンボチェ僧院の訪問

一九八九年秋から二年あまり、JACでも再建募金に取組みました。多くの会員の協力で、約六百万円を、現地へ届けて役立ててもらいました。

エベレストと対峙するタンボチェの丘に、僧院はほぼ完成し、あとは仏画や経典の整備を残すだけのようです。

正式な落慶法要は、もうすこし後のようですが、次の日程で現地を訪問し、激励を兼ねた「邦楽コンサート」を計画中です。

日程　九三年四月二十三日～五月十三日

経費　約三十六～四十万円位

申込　杉並区役所山岳部　三渡忠臣
〒166 杉並区阿佐谷南一－一五
（杉並区役所内）
勤☎〇三－三三九一－五七五四
自☎〇四二六－二五－〇五五一

◉資料委員会からのお知らせ

今回当委では望月達夫会員よりスクラップブック三十四冊（備品番号一〇四番）の寄贈を受けた。その内容は一九三〇年から一九八九年に至る同氏の綿密な山岳関係の新聞切り抜きであって、立教のナンダコット遠征や、ファンク隊の来日、ナンガパルバットの悲劇など、戦前のものは完全に整理されていて、生きた登山史を眼の辺りにする感じである。戦後のものはヒマラヤ遠征に重点がおかれ、収録新聞の種類も限られてはいるが、内外の遠征隊の状況や、マスコミの関心の在り方なども示されていて興味深い。

これらは山岳会ルーム談話室の資料展示棚Aの下段に収蔵されているので、興味ある方は事務室で鍵を借り受け、随時閲覧されたい。

山　572-1993・1・20（第三種郵便物認可）

なおこのような資料をお持ちの方々は次代の山岳界活性化のため、精々本会宛寄贈して頂き、公開して下さるよう併せてお願い申し上げる次第である。

◉図書委員会の催し

第二十一回山岳史懇談会

題目　北大山岳部の登山―戦前の回想を主として

講師　朝比奈英三、橋本誠一

日時　二月二十六日㈮六時三十分より

場所　山岳会ルーム

第二十四回山岳図書を語る夕べ

講師　田口二郎氏

日時　三月二十五日㈭

場所　山岳会ルーム

◉中高年登山者のための講演会

生涯スポーツの時代に入り、中高年層のスポーツ参加が非常に多くなりました。当会においても若い人達を中心とするヒマラヤ・エキスペディションばかりでなく、年輩者のための生涯登山にも充分な意を注ぐ必要を感じます。そこで左記により中高年登山者のための講演会を開きます。奮ってご聴講下さい。

記

日時　平成五年二月二十四日(水)午後七時より

場所　日本山岳会集会室

講師　筑波大学教授　浅野勝巳先生

演題　「中高年登山者に対するトレーニング効果」

会費　三百円（茶菓代他）

医療委員会・集会委員会

資料寄付のお願い

登山の用具、記録等、整理する時考えて見て下さい。他に寄付する前に山岳会へ。捨てる前にも再考を。

資料委員会

謹賀新年

会報編集委員会

平成五年一月二十日発行
102　東京都千代田区四番町五―四
サンビュウハイツ四番町
発行所　社団法人　日本山岳会
発行者　山田二郎
編集代表　小倉厚
電話東京（3261）四四三三
振替口座　東京三―四八二九番
東京都港区赤坂一―三―六
赤坂グレースビル
印刷所　株式会社　技報堂